

# 自然観察NOW

野幌森林公園自然情報

2003.7.17 No.4

北海道ボランティア・レンジャー協議会

## マイマイ・カタツムリ・デンデンムシ

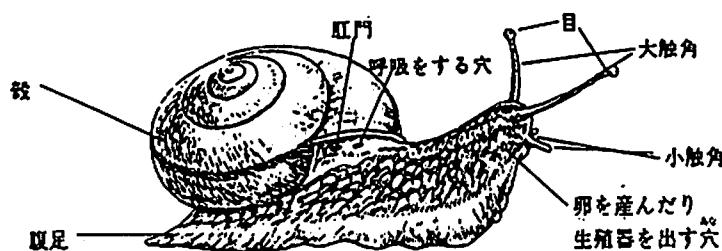
雨あがりの日や湿度の高い日に、森の中を歩くと、マイマイ（カタツムリ）を見つけることができます。小さい頃からの親しみからか、マイマイ（カタツムリ）でくわすとなにかほっとします。自然ガイド 野幌森林公園（村野紀雄 北海道新聞社）によると、ヒメマイマイ、エゾマイマイ、サッポロマイマイ等が記載されています。

マイマイは軟体動物の腹足綱、有肺類に属します。マイマイとはこの類の殻が何回も巻いているところから「巻き巻き」となり、それがマイマイになったといわれています。カタツムリという名はカタツブリに基づくもので、かた（潟）すなわち陸上にいるツブリ（巻き貝）という意味とか、カサツブリからきた言葉で、かさ（笠）形のツブリ（巻き貝）という説や、2本の触覚を振る様子から片角（かたつの）振りからきたとの説などさまざまです。

さらに、デンデンムシについては、殻のなかにひっこむとなかなか出てこないから名付けられたといいます。名の由来はさておき、マイマイを観察してみましょう。夜に行動しますが、雨の日や雨上がり、さらには湿った場所を探してみましょう。

殻をよく見ると、入り口に乾燥を防ぐための膜がはらわれているのがわかります。また、殻の模様や右巻きか左巻きかを調べてみましょう。マイマイは成長するにつれ殻の渦巻きの数が増えて、おとなは4巻から5巻です。口には歯舌（しせつ）とよばれるヤスリのような歯があって葉や花、コケなどを削りとるようにして食べます。雌雄同体で、オス、メスの区別がなく両方の機能を持っていて交尾では、互いの精子を交換します。マイマイはタニシとは違ひ肺で呼吸をします。

日本では100種類あまりが知られていますが、それぞれの地方に特有の種があります。



## 野幌森林公園一口メモ

北海道開拓の村は昭和58年に一般公開が開始されました。明治・大正期に建築された北海道の建造物を54.2箇の敷地に復元・再現して、開拓当時の生活を体験してもらうことと、文化の流れを示す建造物を保存し、後世に永く伝えることを目的としています。

この施設は村全体が展示であり、動く展示として、夏は鉄道馬車、冬は馬そりが運行されています。自然とマッチした建物が瑞穂の池へ向かうコースから見え隠れしています。

## 大沢の池 昨今

公園内の大沢口から「大沢の池」を経由してのコースは手頃な観察コースです。中間地点に「大沢の池」や「大沢園地」があり変化に富んでいます。このコースのサポート「大沢の池」の水位が大幅に減っています。この原因は、池の水を農業用水として利用してきた周辺の稲作農家が休耕して、水をためる必要がなくなったためだと言われています。

大沢の池は大沢口から北東約2kmの地点にあります。池の形は細長い形で最大幅は420mあります。もともとは水が流れる沢地でしたが、開拓時代に農家が水をせきとめ池をつくり稲作に利用してきました。そして、江別市内の農家30戸でつくる野幌中部水利組合が1953年に、所有者の国から同地3.2haを借り水田用の貯水池として利用してきた経緯があります。

ところが、2001年以降、利用組合の農家全戸が休耕してしまい、雪解け水を溜める必要がなくなり、水を溜める栓を開けた状態にしました。その結果として池の水位が2~3m近く下がってきました。

米作農家が休耕した理由の一つは、米の価格が下がる中で、池の借地料や管理料の負担がかかり採算がとれないこと、二つには、国の減反政策によって米を作る環境の悪化があげられます。

将来、稲作を再開するかどうかわからぬ状態では、農業用水としての貯水池の役割がなく水位調整や管理上の問題があるといいます。

「大沢の池は」は知っている通り水鳥の観察場所でした。マガモやオシドリなどの姿や水辺に集まる野鳥がたくさんいました。しかし、水位の低下で最近では水面に浮かぶ水鳥を観察することは稀になりました。また、水ぎわの乾燥によって植相も変わってくるはずです。湿地を好む野草も他の種にとって変わられるかも知れません。

「大沢の池」も「瑞穂の池」のように保守管理されれば、大沢コースの魅力がさらに増していくと思うのですが。

## 栗のいわれ

クリの花が満開です。クリの語源は、黒い実、くろ実、これがクリになったという説と実の形がクリカタ（刀の鞘表の鋸口近くにつけるもの）に似ているという説があります。栗という漢字については、本来、漢字は中国のものです。中国の西の方角はトルコの方角で、その地域にはマロンという大きなクリがあり、中国にはシバグリとか天津グリなど小さなクリしかありませんでした。おおきなマロンが欲しいと考えた中国人は西の木が欲しい、すなわち栗としました。

もう一つは、西という漢字はザルの象形文字で、クリの出たイガの形がザルに似ているということで、西に木と書いてクリとよませたそうです。植物の語源を調べるのも面白いものです。

## 8月の観察会は？

夏の森の林床には草丈の伸びた野草が目に入ります。よく観察すると秋の準備が始まっています、さまざまな果実が見られるでしょう。夏の暑さを謳歌するようにエゾゼミやコエゾゼミが鳴いています。

### ・夏の森の観察会

8月10日（日） 10:00~14:30 大沢口 ふれあい交流館前（昼食持参）